

令和 5 年 6 月 28 日

## ヘルパンギーナに関する注意喚起について

ヘルパンギーナが県内で流行しています。

第 25 週（6 月 19 日～6 月 25 日）の定点医療機関あたりの患者報告数が **6.86** となり、「**警報レベル**」の開始基準値 **6.0** を超えました。

全国的にも、患者報告数が増加しており、ヘルパンギーナの感染予防のため注意喚起します。

### 1. 県内の発生状況

定点医療機関あたりの患者報告数（感染症発生動向調査、小児科定点）

週	21 週 5/22～5/28	22 週 5/29～6/4	23 週 6/5～6/11	24 週 6/12～6/18	25 週 6/19～6/25
富山県	2.62	4.69	4.76	5.21	<b>6.86</b>
全 国	1.33	1.87	3.02	4.5	(7/4 公表予定)

小児科定点医療機関数：富山県 29 医療機関、全国：約 3,000 医療機関

### 2. ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは、5 月から夏季にかけて、乳幼児を中心に流行するウイルス性感染症で、いわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患です。

2～4 日の潜伏期の後、突然 40 度近くの高熱に続いて、口腔内に水疱ができ、のどの痛みやのどの奥に発赤がみられるようになります。

水疱はしばらくするとつぶれて痛むことから、十分な飲食ができずに脱水状態になることがあるため注意が必要です。

熱は 2～4 日で下がり、一般的に経過良好な疾患ですが、発熱時にけいれんを伴う場合があるため、注意が必要です。

### 3. 予防のポイント

- ・ おむつ交換やトイレの後、調理や食事の前には石けんと流水で手を洗いましょう。
- ・ 家庭や保育園・幼稚園などの集団生活では、タオルの共用は避けましょう。

- ・ タオル等の消毒には、希釈した塩素系漂白剤や熱湯を用いましょう（アルコール消毒液は効果が弱い）。

感染経路は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスによる飛沫感染や、ウイルスが手などを介して口から入る接触感染です。

症状がなくなった後も2～4週間は便からウイルスが検出されることがあります。

報道機関の皆様には、県民の方々に対し、ヘルパンギーナを予防するため、注意喚起に格段のご協力をお願い致します。